

文京区リサイクル清掃審議会第1回食品ロス検討部会 会議録要旨

I 日 時 令和2年7月6日(月) 午前10時00分～午前11時44分

II 場 所 文京シビックセンター24階第1委員会室

III 出席者

【学識経験】 南部和香(部会座長)

【委員】 諸留和夫、渡辺新吉、寺澤弘一郎、吹野公一郎、甲野三枝子、村田薫

【オブザーバー】 藪田雅弘(審議会会長)

【幹事】 八木資源環境部長、村田文京清掃事務所長、村岡リサイクル清掃課長

【関係者】 栗原(改定支援委託事業者)

【傍聴者】 0人(資料のみ1人)

IV 配付資料

(事前送付)

- ・食品ロス検討部会資料第1号 食品ロス削減推進計画(案)

(机上配付)

- ・リーフレット「ぶんきょう食べきり協力店」
- ・チラシ「フードドライブ」

(閲覧用)

- ・冊子「文京区一般廃棄物処理基本計画改定に係る基礎調査報告書(令和2年3月)」

V 会議録要旨

○南部座長

開会の挨拶

定員数の確認、委員7名出席で審議会成立

人事異動による新任幹事の紹介

○村岡幹事

就任の挨拶

配付資料の確認

○南部座長

部会の取扱

会議録作成のための録音の了承

HP公開の了承

○村岡幹事

資料第1号の説明

○南部座長

では(1)から順番に。

少しまとめた感じで伺った方がよいかと思ったが、細かく見ていく感じで大丈夫か。

○吹野委員

食品ロスは大きな問題になっている。東京ドームの飲食店・テナントの意見では、ロスは売り上げ・収益に直結することなので、基本的にどの店も注意をしている。こういう問題に取り組むべき時期にきている。事業者として、東京ドームとして、計画に貢献していかねばならないと思う。

○甲野委員

残してよいとは思っていないと思うが、周りの人を見ると変わっていないようである。自分のこととして考えていないのでは、皆の心をうまく変えていくのが大事。

○村田委員

食品ロスの関係で平成27年度の数值は646万t、具体的なイメージで10tトラック1,770台分が捨てられているということになる。

家庭のロスは大量に買い過ぎ、企業の半分は食べ残し。それを防ぐには家庭はフードドライブ、企業は食べきりを推進する。アメリカ等は食べ残しを詰めるドギーバッグが定着しているが、日本では食品衛生の関係で難しい。できることを1つずつやるしかない。惣菜のパックは量を調整して販売する、食べきり協力店を増やす、フードロス・食品ロスの削減にクーポン券を活用するなど。推進計画を見て、半分くらい減らさなくてはならず、やるべきことは多岐にわたるが、周知の度合いなどから、できることをしぼって1つずつ進めていくことが大事と思う。

○寺澤委員

商店街数が56、1,200軒くらい店があるが、飲食店の件数が増えて比率が高くなっている。スーパーは1人用のパックが非常に多くなっているが、商店では2~3人前の量で販売している店も多い。そのあたりを考えないといけない。

コロナの関係でテイクアウトをする店が非常に増えている。商店街の中には食べきり協力店があるが、もっと増やしていく必要がある。リサイクル清掃課と話し合い、商店街連合会としてさらに協力できる形のアイデアを考えたい。

○渡辺委員

食品ロス削減については教育が一番大事。あるホテルのパーティ料理のコースに、余った食材で料理したもったいないメニューがあり、来場者に教育の一環として提供している。社会貢献ということかと思うがとてもよいと思う。

東京都の目標数值は食品ロスを50万tから38万tにするのは、理解していない人にとって、計算根拠は何かを周知できるようにした方が実際に取り組んでいただけたらと思う。

○諸留委員

食品ロスの定義をはっきりしないといけない。まず家庭系食品ロスとは何か。家庭、コンビニ、食堂それぞれに分けて考えた方が分かりやすい。

数值自体はあまり正確ではないのではないかと。正確ではない数字を当てにせずとも時間ももったいない。家庭、コンビニ、食堂それぞれの対策を考えて実行した方がよい。

数値は国連から言われたことで、国、都道府県、市区町村と降りてきて、末端の自治体でやらざるを得ない。報告するのであれば適当な数値を見繕って行えばよいが、あまり与えられた数値を真剣に信じてやるのはどうなのかなと思う。

○南部座長

数値目標がほしい人もいる。

一方で具体的な行動に直結するイメージできるものも同時にあればよい。どんなタイプの人もできる目標を設定できるようにするとよいと思う。

○村岡幹事

昨年度実施をした調査の中で、廃棄されたものを手つかず、使い残し、食べ残しで3種類に分類して調査をした。数値は調査をした総量を合計して推計したもの。表記については今後記載する内容を明確にしていきたいと思う。

○諸留委員

スーパーに買い物に行くと、キャベツの外葉が捨てられている。こういうものや小魚などの頭尻尾、お釜にこびりついた米粒なども食品ロスになるか。

○南部座長

食品ロスに入ると思う。

(2) 基本指針

南部座長

「(2)基本方針」に話を進めていきたい。自分のこととして考えていくことが大事だということで、改めて皆様のご意見を伺いたい。

○吹野委員

実際に取り組む区民に周知する上で、このようなスローガンは分かりやすくよい。

まず、食品ロスを解決する上でどういうことをすればよいのかを分かりやすく伝えることが第一だと思う。

○南部座長

このスローガンは個人という感じだが、事業者側としてはどのように読み解くか。

○吹野委員

事業者としても食材の発注など注意をするが、レストランはお客様が残さないようにすることが大事になってくる。事業者側としてまずは区民に訴える形がよいと思う。その中で事業者として何ができるかを考えていきたい。

○甲野委員

1人ひとりがあったいないという思いが大切。「無理をせず」はよい言葉だが、多少は無理が必要と思う。食品は工業製品と違い期限が短いので、もう少し厳しい表現がよいのでは。

○村田委員

消費者側としてはそうした意識に基づいた行動を習慣化することが大事だと思う。具体的にはショッピングに行く前に冷蔵庫を見て、買うものを決めてから出かける。チラシの特売に目移りする、空腹のときに余計なものを買うなど、賢い消費者になればそうしたロスを少なくできると思う。

○寺澤委員

売る方の立場として、最近のパン屋は焼きたて時間を3回に分けたりする一方で、古いパン屋はたくさん作りすぎて余ってしまう店もある。テレビやインターネットで見たが、タイムサービス的なものでセット販売するような店も増えている。商店街連合会の中でも色々な情報を発信できるような形にし、連携をしていけば少しずつ変わっていくと思う。

○渡辺委員

「無理をせず」もそうだが、「明るく楽しく」が食品ロスにあうのか。スローガンを変えた方がよいのでは。「生産者の想いを忘れずに」というような表現がよいのでは。

○南部座長

スローガンについては後ほど事務局からコメントを頂きたい。

○諸留委員

具体的な策がないと、結局何もやらない。基本的な話ということでここではよい。

○南部座長

スローガンについて村岡幹事からお願いしたい。

○村岡幹事

基本指針については、本来食べられるのに廃棄されてしまう食物、そういったものを減らすために1人ひとり努力しなくてはいけないということを表したものだ。その人それぞれの生活スタイルに合った食品ロス対策をして頂きたいという思いを入れている。

上級者もいれば、初級者が第1歩として簡単に冷蔵庫のなかを見て買い物に行くことからスタートして頂きたいと考えた。無理をして頑張ればよいが持続しないかもしれない。持久力を考えた上でその人にあった食品ロス対策をして頂きたいと考え設定した。

○南部座長

生産者の想いについて入れてはどうか。

○村岡幹事

生産者の方の想いも大事だと思う。消費者が食品ロスを減らすことが、生産者への想いを汲むことに繋がるのではと考える。そうしたことを含めて周知啓発活動に努めていきたい。

(3) 目標値の設定

○吹野委員

目標値が令和7年度21.9gとはどのくらいの量なのか分かり辛い。野菜でいうと何個分などと記載されると分かりやすい。具体例があるとよい。

○甲野委員

数値だけでは分かりにくい。

1人当たりというのは赤ちゃんも入るのか。5人家族だとこの5倍と考えると大変なことで、先ほど多少は無理が必要と言ってしまった。

最後に燃やすというのが大変なところで、燃やしても灰が残り、その灰をどうするか、そういうことを1人ひとりに分かってもらうためにはグラムで表現するより、わかりやすい表現が必要と思う。

○村田委員

ガイドラインの目標値のイメージがどれだけ明確に分かるかが大事だと思う。10年後に半減するという計画はよいが、数値目標だけだと夏休みの子どもの宿題のように結局できなくなるということになるのではないか。

個人ができるかできないか分かってしまうくらいインパクトのある明確なイメージを作って、たたき台としてガイドラインにフィードバックしていけば、よりよいものができると思う。

○寺澤委員

どれだけの量が分からないので、分かるような目安のアイデアがあればよい。どれくらい減らせばよいのか分かるとよいと思う。

○渡辺委員

数値を設定することは非常に大事。みんなが納得できるものを出していただければと思う。

1日1人24gで1年間何kgになるのか。

○南部座長

1日24gで1年間約9kg位か。

○渡辺委員

該当するか分からないが、賞味期限が過ぎた非常用ペットボトルを廃棄するぐらいで達成できそう。安易に考えてしまうが、そのあたりを教えていただきたい。

○諸留委員

先ほど言ったように数値は当てにならないので、数値にあまりエネルギーを使わない方がよい。

国際的な約束事があるので、誰も文句を言わないようにうまく作って頂きたい。

○南部座長

具体的なイメージが大切。

24g は 4 日で 100g の方が分かりやすいか。目で見えた方がよいと思う。数値が好きな人もいるので、色々なものがあるといい。ごみを減らすかつこよい新しい生活スタイルが示せるとよいと思う。

1 日 20g を減らす新しい生活スタイルはどんな感じなのかを示せればよい。

○村岡幹事

数値目標は数値目標で設定し、具体的なイメージを分かりやすい形で掲載していきたい。

また、各世代に応じたイメージや生活スタイルといった工夫をしていきたい。

現在、一般廃棄物処理計画を作業中だが、コラム内で何 g はどのようなものか牛乳パック何個分など掲載しているものがあり、参考にして示していきたい。

(4) 進捗管理

○吹野委員

アンケートは必要と思うが、こういうものは積極的に取り組む人とほぼやらない人と二極化する。

積極的な人はそのまま続けていただき、興味のない人をいかに積極派に取り込むかが大事と思う。

中間進捗状況アンケートの結果で、消極的な人が多い場合、その人達をどうやって積極派に取り込んでいけばよいかを考える必要がある。

○甲野委員

表 2 を見ると、子育て中は忙しくてできなかった。1 人ひとりの意識を変えないと、忙しいからできない等で逃げてしまい、いつまでも変わらないような気がする。

ぶんきょう食べきり協力店もよいが、知合いに残り 15 分で食べ切りを勧める人がおり、その人がいると必ず食べ切るので、そういう人を増やすこともよいのでは。

○村田委員

食べきり協力店をしっかりと周知して、さらに増やす。

フードドライブを区民 1 人ひとりが理解し、施策としてできるような体制が必要と思う。

情報収集と普及啓発は大事だが、もっとインパクトのある押しがないと推進というのは途中でスピードが劣ってしまうのではないか。文京 eco カレッジやイベントの普及啓発も中弛みになってしま

うように感じる。そのあたりをもう少し考える必要があるのではないか。

○寺澤委員

商店街の飲食店で色々な業種があるので、リサイクル清掃課から商店街連合会へ呼びかけて頂き、色々な業種の人と、食材の扱いについて意見交換をし、個々のお店でよい形に持っていきたい。

○渡辺委員

進捗管理はこれでよいと思う。成果を上げるためには、商店街連合会や大学などに協力を依頼し、周知、ムード作りをしていくことが大事。区の広報だけではなかなか難しい。本来であれば国を上げてやって頂きたい。

○諸留委員

家庭、スーパー、レストランなどと分けて考えないといけない。文京区内の大手コンビニやスーパー、レストランに依頼してアンケートを取ることができるのでは。小さな商店も組合経由で依頼してお願いできるのでは。

○南部座長

こちらは抜粋になるので、本編には細かいものがある。

文京区チームとしてやっていくことが大切ということが皆様のご意見。

報告書を見ると、子育て世代が多いようだが、各年代の生活スタイルに合わせて手助けができるような何かがあるとよい。区民アンケートからそのあたりがくみ取れるとよいと思う。

○村岡幹事

この指標は家庭を対象にして作成したもの。表記については、もっと視覚に訴える形で分かりやすくしていきたい。

食べきり協力店については、皆様のご意見を参考に進めていきたい。

大学については検討しているが、現在学生が登校していない状況で、時期を見計らって声掛けをしていきたい。

○南部座長

例えば、基礎調査の報告書を細かく見ていき、反省を仰いでいくというのは犯人捜しのようにあまりよくないが、傾向を見ていくことで何かヒントになるのでは。

○村岡幹事

特定の人に負担をかけるのではなく、アンケート調査の見せ方の工夫で周知の効果を上げていきたい。

(5) 具体的施策

○吹野委員

ここに書いてあることはやるべきこと。文京区内事業者にどれだけ訴えかけられるかが、食品ロス削減が成功するかしないかの肝だと思う。周知が必要だと思う。

○甲野委員

食べきり協力店をよく知らなかった。普及啓発が大切。食品ロスも国をあげてのイベントと同じくらいの勢いで皆さんにお知らせした方がよいと思う。

○村田委員

具体的な指針を行っていく上で、キャンペーン、インセンティブを設けプラスアルファ要素を入れた方が関心が高まり、参加する人の層が増えるのではないかと。いきなり高いインセンティブは必要ないが、1つずつ前に進めるようなキャンペーンを推進することで関心を高めていく。

情報収集と普及啓発はよいことが書いてあるが、個人として分かっていることと行動することは違うので、そのあたりを考えて実践したほうがよい。

○寺澤委員

この食べきり協力店の商店街連合会のお店が3割から4割ぐらい。業種によって持ち帰りの対応が難しい店もあるがもう少し増やしたい。ステッカーだと分かりにくいので、店頭にもっと目立つフラグやテナント等でアピールしてはどうか。色々な特色の店があるので、そのあたりも考えながらもう少しよい形でアピールできるようにしたい。

○渡辺委員

産業団体等に協力してほしいと発言したが、既に食べきり協力店パンフレットに記載されており、安心した。

家庭での教育だけでなく、教育委員会に申し出て、小さいうちから学校で食品ロスの教育をして頂きたい。

○諸留委員

区の職員の取組は簡単だと思う。

今の家庭はあまり教育をしないので、学校で教育してほしい。もったいない運動の話等がよい。ゼロエミッション活動も実践している業者に学校での教育を依頼してはどうか。大手の業者なら承諾してくれるのではないかな。

○南部座長

ステッカーが目立たないという意見があったが、このデザインに意味があるのか。

○村岡幹事

このデザインは、無償協力でデザインして頂き採用したもの。それを協力店に配付している。

○南部座長

そういうことであれば、これが目立つように扱われるとよい。何かアイデアがあれば事業者側でも消費者側の視点でもご意見頂きたい。

(6) 計画の推進体制・(7) 区民・事業者・区の行動計画

○吹野委員

書いてある通りだと思う。

②の具体的な取組内容が分かりやすくよい。ここに書いてある具体策を周知できるかが大事だと思う。

○南部座長

東京ドームさんは食べきり協力店は入っているか。

○吹野委員

今入っていない。数年前に話は頂いたが、すでに対応しているテナントもあるが、管理しているテナント全部を統一するのが難しいため断った。前向きに検討していきたい。

○甲野委員

現在、健康面や個人の問題で給食を残してもよい風潮になっている。そのあたりを食品ロスにからめて、食べきろうと進めていくようになるとよい。

ぶんきょう食べきり協力店だが、大手（チェーン店）は他の店舗との兼ね合いもある。小さな店舗は顧客に合わせて量を減らす等の対応済みのところが多いと思う。加入依頼、協力依頼くらいの形でいくのがよいのでは。

○村田委員

情報収集・学習のところで、講習会・料理教室など非常に重要なので是非開催して頂きたい。料理教室は、ものを作ることで食品ロスに関する知識が得られれば、参加者も増えると思う。

講習会も開催すれば知識を持った人が増えるので是非実行して頂きたい。

○寺澤委員

地域によって温度差がある。現在コロナで会議が開催できない状況。

事務局と協力し、どのような形で地域を回り、協力店を増やしていくか話し合いながら実行していきたい。

○渡辺委員

食べきり協力店を文京区観光協会と協力して増やしていったらどうか。飲食店だけでなく、食品ロスの削減に協力している事業所を認定するのはどうか。

賞味期限・消費期限の正しい知識の部分で、手前取りの記載は主婦から批判されるのでは。世の中の周知の難しいものをここに記載してよいのか。

○南部座長

手前取りは国推奨のメッセージなので、少しでも周知して進めていきたい。

○諸留委員

どうしても新しいものを買ってしまうのが心理だが、賞味期限等多少古くても大丈夫と思う。

残った料理の持ち帰りは、危険があるので飲食店はやらないところが多い。ご飯小盛りを選んでも、おかわりは無料であることをアピールするなどよいのでは。

懇親会等で会食の時、終了時間の10～15分前に「あと〇〇分で終了となりますので、お料理、飲み物を召し上がってください」と具体的に伝えるとよい。

○南部座長

色々な形で知っていくと変わっていくと思う。農業体験で収穫したものを調理して食べると、嫌いなものも食べられるようになる。経験やチャンスを活用すると意識が変わっていくのでは。食品ロスを食べ物のことだが、飲み残しドリンクも配慮しなくてはいけないものだと思う。

○諸留委員

飲み残しのドリンクはやはり捨ててしまう。

全体を通して

○薮田会長

コロナの時代、コロナの影響を考えることもしなくてはならない。

食品ロスに関して、基本的な考え方をきちんと考えなくてはならないと思う。一番大事なのは消費者をどう変えるか消費者がどう変わるかということ。豊かな時代の中にあり、たくさん廃棄することが豊かさの反映ではなく、豊かさの貧困になっているということだと思う。

個人個人がどう変わるかという点では、表1でマクロ的な数値目標が挙げられており、表2で区民の意識の目標値が書いてある。これは非常に大事なことで、我々は何ができていないか、個人個人に質問を投げかけることで、意識の改善につながる。

一点残念なところは、数値目標はきちんとあるがインセンティブがないこと。ごみを削減すると経済的なメリットがあることを明らかにすることが必要。数十gのごみを削減することが自分たちにどんなインセンティブ、メリットがあるかを明らかにしなくてはいけない。

食品ロスは事業者と家庭は大体半分半分、それぞれにとってインセンティブがあるようにする必要はある。

食べきり協力店は安心して購入ができる店、利用することで環境に対して貢献できる店として、消

費者が選択し行動すれば、食べきり協力店はよいお店であるという評価になり更に広がっていく。そういう形でインセンティブを持たせるような仕組みが必要。

○南部座長

今回の内容を整理し、次回7月30日第7回審議会で報告できるようにしたい。

○村岡幹事

部会の会議録送付の案内

修正や追加の申し出の依頼

座長一任の了承

○南部座長

閉会の挨拶